

千葉工業大学 防災対応 マニュアル

大地震と津波に備えて

2025年度版

- I 地震発生時の対応
- II 地震発生後の対応
- III 地震発生数日後の対応
- IV 津波からの回避
- V 参考となる情報

千葉工業大学防災対策基本方針

- 1 人命の保護を最優先する。
- 2 学業の速やかな再開を図る。
- 3 防災に関する事前対策を講じる。
- 4 近隣住民などへの協力を惜しまない。
- 5 危機管理体制を定期的に見直し、継続的に改善する。



C O N T E N T S

■ はじめに	2
I 地震発生時の対応 「地震が起きた時にまずどうする」	3
II 地震発生後の対応 「帰宅するか・キャンパスに残るか」	8
III 地震発生数日後の対応 「安否報告・休講・授業再開・ボランティア活動について」	9
IV 津波からの回避 「新習志野キャンパスと茜浜運動施設では津波に対する対応が必要」	11
V 参考となる情報	12
1. 日頃から準備しておくこと	12
2. キャンパス（習志野市）から15km以内のエリア	13
3. 帰宅支援ステーション	14
4. 家族・友人間の安否連絡の方法	15
5. 出血時の応急手当てについて	16
6. 消火器の使い方	17
7. トイレについて	18
8. 避難生活について	18
9. その他災害への対応	19
10. 防災対応マニュアルについて	21

はじめに

このマニュアルは、基本的な行動基準を示すもので「千葉工業大学防災対策基本方針」に基づき、防災・減災意識の定着と震災発生時の緊急対応について解説したマニュアルです。

震度6弱以上の地震に際して、地震発生時に身を守り、発生後数時間の混乱を乗り越え、最低限の社会インフラが回復すると考えられる3日後までの対応方法をまとめています。

震度6弱		
体感・行動 屋内・屋外	人の体感・行動	立っていることが困難になる。
	屋内の状況	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 ドアが開かなくなることがある。
	屋外の状況	壁のタイルや窓ガラスが破損・落下することがある。
木造建物 (住宅)	耐震性が高い	壁などに軽微なひび割れ・亀裂が見られることがある。
	耐震性が低い	壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。 壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。 瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
鉄筋コンクリート造建物	耐震性が高い	壁、梁（はり）、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。
	耐震性が低い	壁、梁（はり）、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が多くなる。
地盤・斜面等	地盤の状況	地割れが生じることがある。
	斜面等の状況	がけ崩れや地すべりが発生することがある。
ライフライン・インフラ等	ガス供給の停止	安全装置のあるガスメーター（マイコンメーター）では震度5弱程度以上の揺れて遮断装置が作動し、ガスの供給を停止する。 さらに揺れが強い場合には、安全のため地域ブロック単位でガス供給が止まることもある。
	断水、停電の発生	震度5弱程度以上の揺れがあった地域では、断水、停電が発生することがある。
	鉄道の停止、 高速道路の規制等	震度4程度以上の揺れがあった場合には、鉄道、高速道路などで、安全確認のため、運転見合わせ、速度規制、通行規制が、各事業者の判断によって行われる。（安全確認のための基準は、事業者や地域によって異なる。）
	電話等通信の障害	地震災害の発生時、揺れの強い地域やその周辺地域において、電話・インターネット等による安否確認、見舞い、問合せが増加し、電話等がつながりにくい状況が起こることがある。そのための対策として、震度6弱程度以上の揺れがあった地震などの災害の発生時に、通信事業者により災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板などの提供が行われる。
	エレベーターの停止	地震管制装置付きのエレベーターは、震度5弱程度以上の揺れがあった場合、安全のため自動停止する。運転再開には、安全確認などのため、時間がかかることがある。

出典:『気象庁震度階級関連解説表』

本学の校舎は震度6弱程度の地震で大きな被害を受けることはありませんが、交通機関・電気・ガス・水道等のインフラが被害を受けることで、学生生活に支障をきたす可能性があるため、このマニュアルの内容をよく理解し、日頃から防災意識を高めておきましょう。

I 地震発生時の対応

地震が起きた時にまずどうする

● 災害「地震」発生時の初動マニュアル

直前

緊急地震速報がでたら、周りの人に知らせ、身を守る準備！
火を消す。安全な場所に避難、机の下などへ

発生

- 1 先ず、身を守る！
机の下などへ
- 2 すばやく火の始末！
ガスの元栓、コンセント、実験器具
- 3 非常脱出口の確保！
ドアを開ける

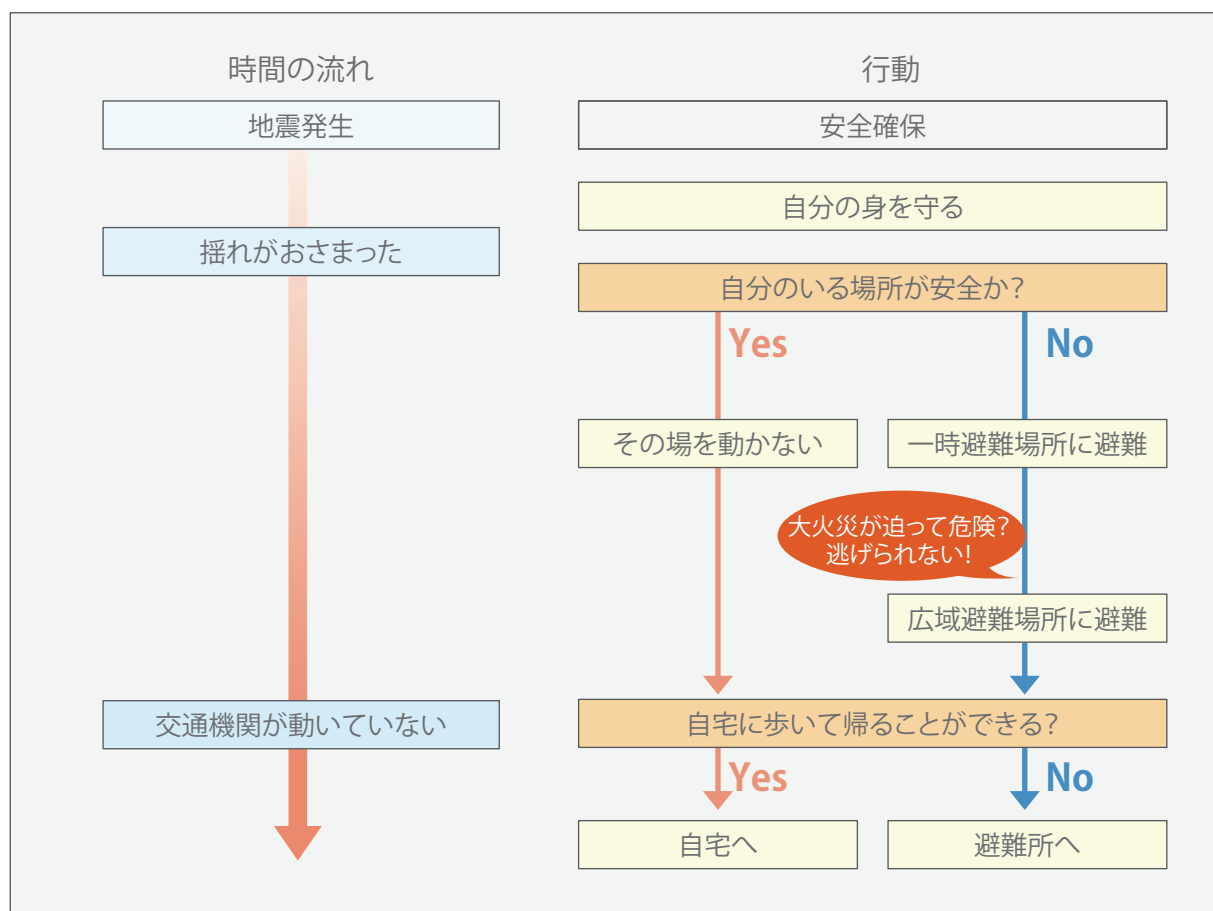
発生後
1～2分

- 1 火元を確認！
火が出たら、落ち着いて初期消火
- 2 同室の人の安全を確認！
倒れた書庫などの下敷きになっている人がいないかを確認、けが人の確認
- 3 作動中の実験装置などの停止！

発生後
3分

- 1 隣接する部屋で助け合う！
他の部屋・教室などで倒れた書庫などの下敷きになっている人がいないか確認
- 2 余震に注意！
建物の状況により、余震で倒壊する恐れのある場合は、指定の避難場所に移動
- 3 津波警報に注意！
津波警報の発令を確認し、安全な場所に避難

1 地震発生から避難まで



2 地震が発生した瞬間の対応

- 窓や棚のように、ガラスが割れたり中のものが飛び出しそうな場所から離れましょう。
- 机の下などに潜るか、バッグや衣類などで頭を覆うなどして、ガラス、黒板、テレビモニター、蛍光灯などの落下物から頭と手足を守りましょう。
- 余裕があれば、ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口の確保をしましょう。
- 火気を使っている時は、火を消しましょう。また薬品などから離れましょう。
- 広場やグラウンドなど落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込み、揺れがおさまるのを待ちましょう。

3 揺れがおさまった後の対応

① 自分自身の心構え

- 冷静に落ち着いて行動してください。
- 建物は大丈夫か、火災は起きていないか、負傷者はいないかなどの確認をしてください。
- 火災や負傷者がいる場合は、最寄りの事務室(教学センター、警備室など)に連絡してください。
- 火災や負傷者がいる場合は、自分の身が安全な範囲で初期消火、応急手当をしてください。

② 自分が負傷した場合の対応

- 大声をあげて助けを呼びます。
- 自分の存在(生存)を明らかにしましょう。
- 携帯電話を使って、外部と連絡するよう努めましょう。
- 声が出なければ、何らかの手段で大きな音を出すなど、周囲の人に気づいてもらえるように試みます。

③ 生存者を捜す場合の対応

- 大声を出して生存者に呼びかけます。
- 発見した場合は、すぐに救助を始めるとともに大声で周囲に協力を呼びかけます。

④ 避難するかどうかの判断と行動

a 判断する時のポイント

- 室内の状況確認：備品が倒れ散乱していないか、薬品が漏れたり、流れ出ていないかなどを確認してください。
- 他の教室の状況確認：周囲の教室や部屋の状況を確認してください。非常放送があった場合は、その指示に従ってください。
- 建物の状況確認：建物が傾いていないか、壁にひびが入ったりしていないかなどを確認してください。
- 火災の状況確認：火災が起きていないか、起きていれば消火できるかどうかを判断してください。
- 以上のポイントが安全と確認できた場合は、とりあえず指示があるまでその場を動かないでください。

b 行動に移す時のポイント

安全が確認できない場合は、次の通り行動してください。

- 火災が起きている場合は、避難する前にタオルやハンカチで口を覆います。
- どのルートで避難すれば安全か確認します。
- エレベーターは使わず、階段を使用します。
- 押し合うなど周囲の人の安全を脅かさないように注意します。

⑤ 発生後 3 分経過後の対応

a 余震への備え

- 避難ルートの確保：大きな地震には必ず大きな余震があります。窓やドアを開け、避難ルートを確保します。

b 火災防止への対応

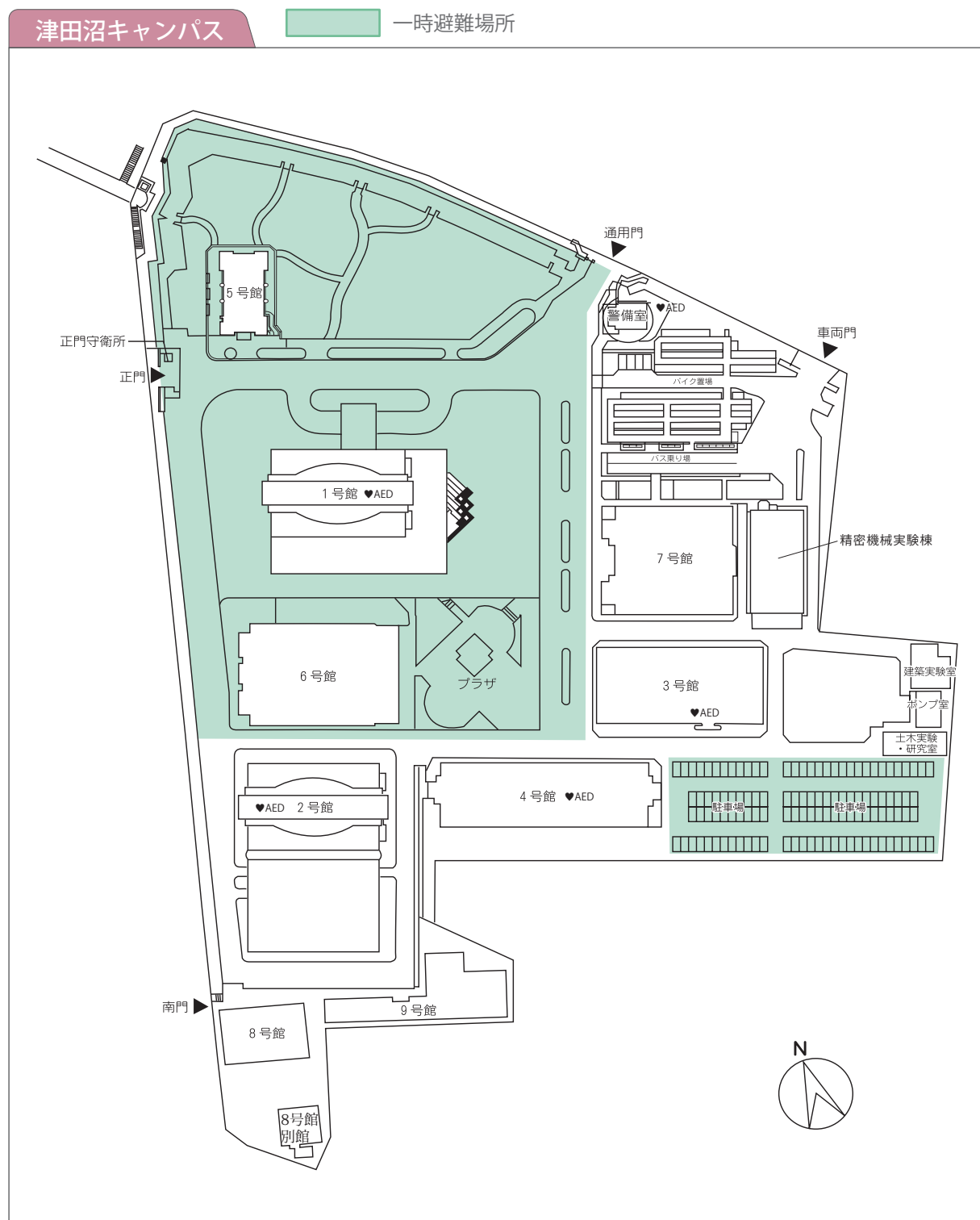
- ガス漏れ対策：2次災害を防ぐためにガスの元栓を閉めます。
- 電気・火災への対策：配電盤のある研究室・実験室はスイッチを切ってください。電気器具はプラグを抜き、スイッチを切ります。



4 避難場所〔避難マップ〕

避難場所は、広く、火災による延焼の恐れがないところが適しています。大学では、あらかじめ以下の場所を一時避難場所として想定していますが、地震時の状況により、安全な場所に避難してください。

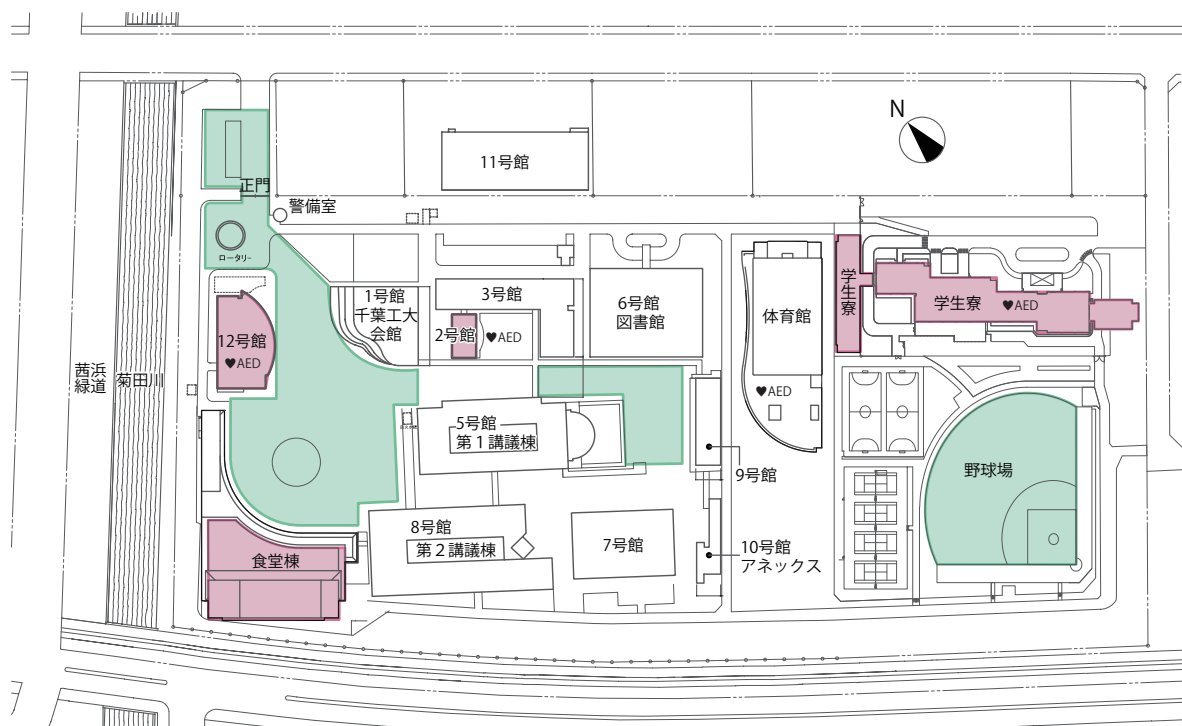
※ 一時避難場所とは一時的な集合場所、広域避難場所とは大規模な火災などが起きた場合に避難する場所です。



新習志野キャンパス

一時避難場所

津波警報時避難場所



※ 津波警報が発令された場合は、液状化現象に注意しながら、2号館・12号館・食堂棟・学生寮の上層階に避難してください。

茜浜運動施設

一時避難場所

津波警報時避難場所



※ 地震発生の際は、周囲に危険物のない平地に避難してください。津波警報が発令された場合は、新習志野キャンパス 2号館・12号館・食堂棟・学生寮の上層階に避難してください。
新習志野キャンパスへの避難が困難な場合は、学生部室棟・屋内練習場の2階に避難してください。

Ⅱ 地震発生後の対応 帰宅するか・キャンパスに残るか

1 自宅がキャンパスから15km以内の人は帰宅

帰宅する目安は、自宅がキャンパスから15km以内にあるかどうかです。地震の規模、起きた時間、交通機関の状況、自身の体調や体力によって臨機応変に決めてください。キャンパスから約15km離れた場所がおおよその範囲なのか「キャンパス（習志野市）から15km以内のエリア（P.13）」を参照してください。

- 地震発生直後の混雑を避けるため、数時間おいてから帰宅を開始する。
(避難者がターミナル駅・幹線道路に集中するのを避ける)
- 原則として、徒歩で帰宅する。
- ターミナル駅・繁華街など、人が集中する場所を通らない。
- 幹線道路を通る。また、複数の帰宅経路を想定しておき、安全な経路を選択する。
- 避難する際は、液状化による道路の段差や亀裂に注意する。

2 自宅がキャンパスから15kmよりも遠い人は避難所へ

① 避難所の利用

自宅がキャンパスから15kmよりも遠い人は、帰宅を見合わせ、大学が用意する避難所か、最寄りの避難所を利用してください。

ただし、地震の規模、起きた時間、交通機関の状況、自身の体調や体力により、臨機応変に判断してください。大学が避難所を開設した場合は、校内放送などでお知らせします。1日～数日程度様子を見て、交通機関などの復旧状況により、帰宅するかどうか判断してください。

② 避難所運営

大学の避難所では、大学の指示に従ってください。備蓄物資や災害用井戸からの水の運搬、避難所運営などのお手伝いをお願いすることもありますので、ご協力ください。



III 地震発生数日後の対応

安否報告・休講・授業再開・ボランティア活動について

1 大学への安否報告

大規模な地震や台風等の災害が起きた場合は、大学から安否確認の連絡があります。身の安全が確保され、余裕ができた時に次の要領でCITポータルから被害状況を報告してください。

- 安否確認の連絡は数回ある場合があります。1日1回はCITポータルを確認するようにしてください。
- 安否確認が始まったら、工大メールアドレス（～@s.chibakoudai.jp）に被害状況の確認メールが届く場合があります。

CITポータルの操作方法

次のとおり操作を行ってください。

① ログインをする

MARINEアカウントでログインしてください。
※CITポータルにログインすると自動的に安否確認画面に切り替わります。
※回答しないと通常画面に戻りません。

② 【安否確認回答一覧】画面が表示される

回答する安否確認の【件名】を選択してください。

③ 【安否確認回答】画面が表示される

各設問を入力の上【回答】を選択してください。

2 家族との安否連絡

家族との安否連絡は、NTTの災害用伝言ダイヤル、携帯電話による情報登録検索、インターネットやSNSによる情報登録検索などを使ってください。利用方法の詳細は「家族、友人間の安否連絡の方法（P.15）」を参照してください。日頃から、震災時にどのように連絡を取るのか決めておくといよいでしょう。

3 休講・授業再開

休講や授業再開のお知らせは、決定後速やかに大学のホームページまたはCITポータルを通じてお知らせします。

4 ボランティア活動

災害復興ボランティアに際しては、下記の心得を踏まえたうえで参加・活動してください。

5つの心得

被災した人々の心や暮らしへの配慮を最優先に考え、善意の押しつけにならないよう謙虚な姿勢で取り組むことが大切です。

- まず自分に何ができるのかをしっかりと認識し、できる仕事から自主的に始めましょう。
- 善意からであっても、必ずしも良い結果を生むとは限りません。常に自制心を持って行動しましょう。
- 活動の中にもやりがいや喜びを見つけ、根を詰め過ぎずに、時には気分転換も図りましょう。
- いくら依頼されても、危険なことやできないと思うことには、断る勇気を持ちましょう。
- 自分の生活に支障をきたさない範囲のスケジュールで、無理のない活動をしましょう。

Ⅳ 津波からの回避 新習志野キャンパスと茜浜運動施設では津波に対する対応が必要

津波が起きるおそれがある場合、気象庁は津波予報を発表します。

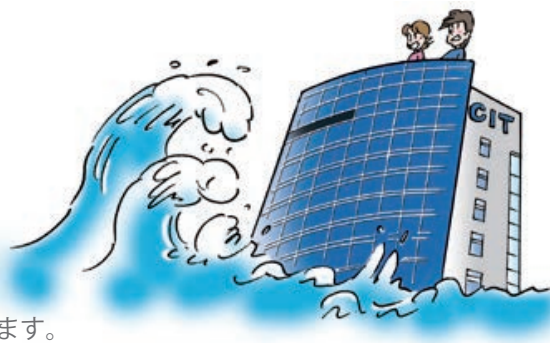
津波予報には、津波の到達時間、区域、時刻、予想される高さなどが示され、警戒度によって「津波注意報」「津波警報」「大津波警報」に区分されています。

① 警報発令から避難まで

- 「津波注意報」が発令された場合は、注意報の内容やその後の情報に十分注意を払うとともに、避難経路や避難場所を確認してください。
- 「津波警報」「大津波警報」が発令された場合は、安全を確保するため、ただちに新習志野キャンパスの2号館・12号館・食堂棟・学生寮の上層階に避難してください。
- 茜浜運動施設から新習志野キャンパスへの避難が困難な場合は、学内部室棟・屋内練習場の2階に避難してください（7ページ参照）。

② 津波が襲来してきたら

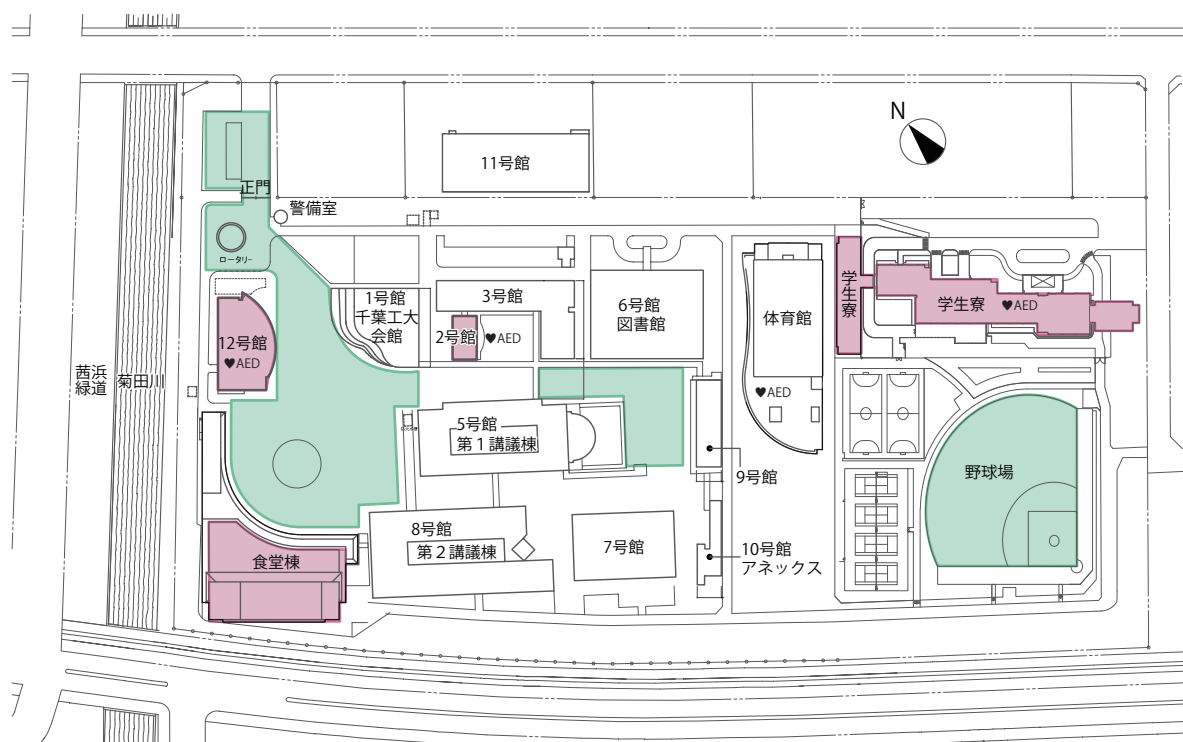
- まず、我が身の安全を真っ先に考えましょう。
自分がケガをしては避難できません。
- 津波が浸水を始めたら、遠くへの避難はあきらめ、建物のできるだけ高いところへ上がってください。
浸水している中では、漂流物にぶつかるなど転倒する危険が大きく、避難できなくなることがあります。



新習志野キャンパス

一時避難場所

津波警報時避難場所



※ 津波警報が発令された場合は、液状化現象に注意しながら、2号館・12号館・食堂棟・学生寮の上層階へ避難してください。

V 参考となる情報

1 日頃から準備しておくこと

① 教室・研究室・実験室などで準備しておくこと

- 最寄りの非常階段の位置はどこか。
- 最寄りの消火器の設置場所はどこか。
- AEDの設置場所を確認しているか。
- いざという時に部屋から避難しやすいか。
- 一時避難場所や広域避難場所への避難経路を確認しているか。
- 自宅に歩いて帰宅する場合の経路は決まっているか。
- 研究室の関係者の緊急連絡先は分かっているか。
- 薬品庫は収納された薬品が転倒しないようになっているか。
- ガス元栓や配電盤の設置場所はどこか。
- 高圧ガスのボンベの転倒防止はしているか。



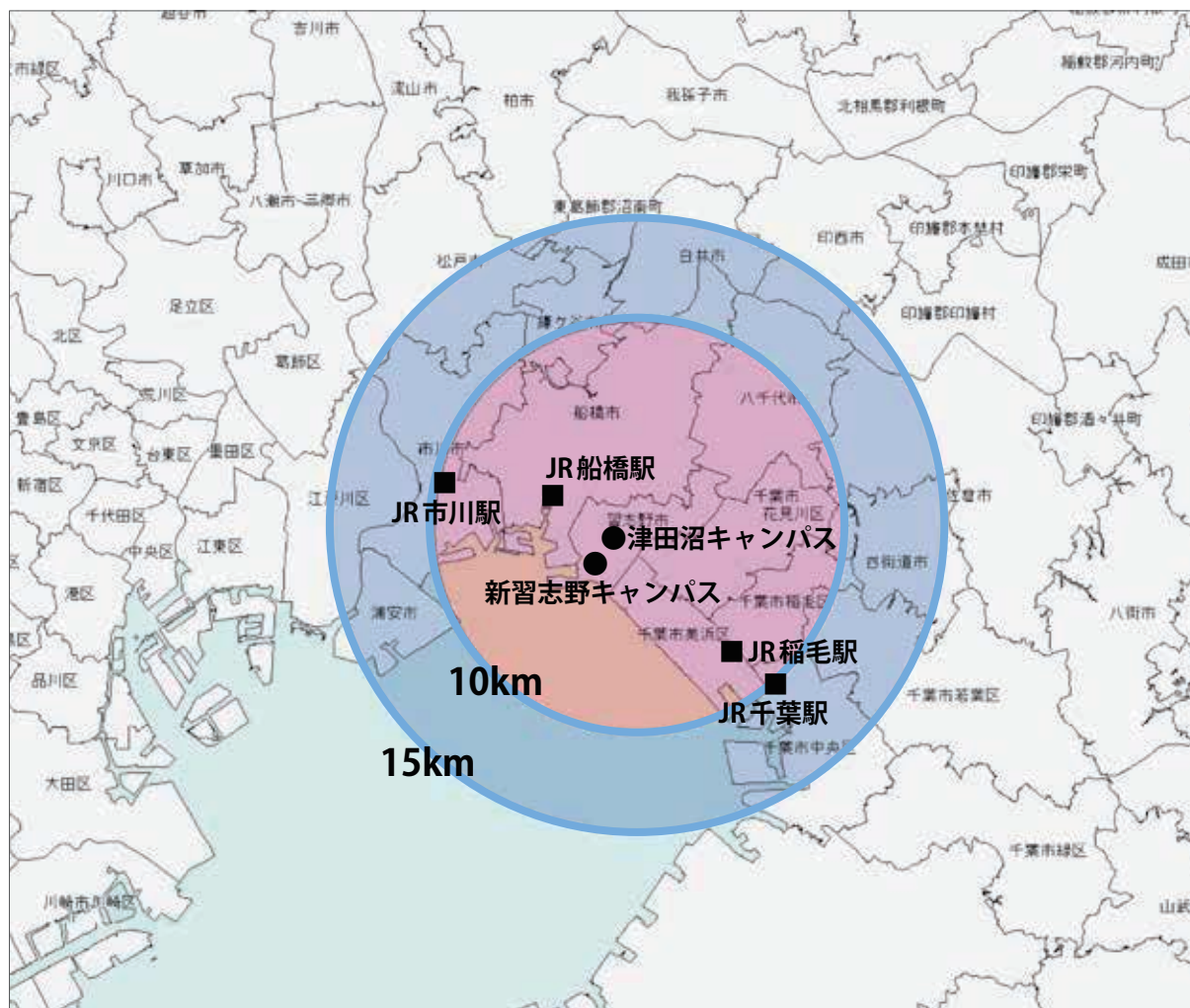
② 自宅で準備しておくこと

- 照明、棚、たんすなどの転倒防止はしているか。
- 貴重品は安全な場所に保管しているか。
- 避難場所を知っているか。
- 非常持出し品を準備しているか。
- 避難経路を決めているか。

一次持出し品	
基本品目（31点）	非常時持ち出し袋、缶入り乾パン、ペットボトル入り飲料水（500ml）、懐中電灯、ローソク、ライター、携帯ラジオ、万能はさみ、軍手・手袋、ロープ（7m）、救急袋＜毛抜き、消毒液、脱脂綿、ガーゼ（滅菌）、ばんそうこう、包帯、三角巾、マスク＞、常備薬・持病薬など、レジャーシート（2畳）、サバイバルブランケット、簡易トイレ、タオル、ポリ袋、トイレットペーパー、ウェットティッシュ、現金（10円玉）、ガムテープ（布製）、油性マジック（太）、筆記用具
必需品・貴重品類	現金、車や家の予備鍵、予備メガネ・コンタクトレンズ等、携帯電話、預金通帳、健康保険証、運転免許証、パスポート・外国人登録証等、印鑑、証書類、住民票
女性用品	生理用品、ホイッスル付ライト、鍵、ブラシ、化粧品、おりものシート
高齢者用品	高齢者手帳、おむつ、着替え、持病薬、予備メガネ、看護用品
赤ちゃん用品	粉ミルク、哺乳瓶、離乳食、スプーン、洗浄綿、バスタオル、ガーゼ、紙おむつ、母子手帳、玩具、着替え、ベビーカー

二次持出し品	
飲料＜飲料水、非常用給水袋＞、食料＜アルファ米、乾パン、パン缶、インスタントラーメン、缶詰類、レトルト食品、切り餅、スープ、味噌汁、ビスケット、キャンディ、チョコレート、塩＞、衣類＜上着、下着、靴下＞、生活用品＜タオル、バスタオル、毛布、雨具、予備電池、卓上コンロ、ガスボンベ、固形燃料、鍋、ラップ、アルミホイル、やかん、皿（紙・ステンレスなど）、コップ（紙・ステンレスなど）、わりばし、スプーン、フォーク、歯ブラシ、石鹸、ドライシャンプー、携帯電話の充電器、新聞紙、使い捨てカイロ、安全ピン＞、その他＜チェックリスト＞	

2 キャンパス（習志野市）から15km以内のエリア



千葉工業大学防災対応マニュアル

4 家族、友人間の安否連絡の方法

① 安否連絡について

家族、友人間で安否連絡を取る方法を紹介します。あらかじめ、ご家族や友人とどのように連絡を取るかを決めておきましょう。また9ページに記載したように、ご家族や友人への安否連絡とは別に大学に安否の状況を報告してください。

② 災害用伝言ダイヤルの使い方

a (自分の情報を相手に伝えたい時) = 伝言録音

「171」 + 「1」 + 「自分の電話番号」 + 「自分のメッセージ録音」

- ① 「171」をダイヤルする
- ② ガイダンスに従って「1」(暗証番号なし)をダイヤルする
- ③ 自分の電話番号をダイヤルする
- ④ 30秒以内に自分のメッセージを録音する

※ 暗証番号がある場合は

「171」 + 「3」 + 「4桁の暗証番号」 + 「自分の電話番号」 + 「自分のメッセージ録音」

b (相手の情報を聞きたい時) = 伝言再生

「171」 + 「2」 + 「相手の電話番号」 + 「相手のメッセージ再生」

- ① 「171」をダイヤルする
- ② ガイダンスに従って「2」(暗証番号なし)をダイヤルする
- ③ 相手の電話番号をダイヤルする
- ④ 相手のメッセージを再生する

※ 暗証番号がある場合は

「171」 + 「4」 + 「4桁の暗証番号」 + 「相手の電話番号」 + 「相手のメッセージ再生」

③ SNSやインターネットによる情報登録検索

大災害時には、SNSやインターネット上に安否情報を登録することができ、検索できるサービスや掲示板に情報を掲載するサービスが提供されます。

主要な検索エンジンからリンクが張られますので、そのサービスを使う方法もあります。

④ 携帯電話による情報登録検索

災害発生時には、携帯電話各社より安否情報を登録検索できる「災害用伝言板サービス」がインターネット上に緊急開設されますので、ぜひ活用してください。

NTT ドコモ	http://dengon.docomo.ne.jp
KDDI (au)	http://dengon.ezweb.ne.jp
SoftBank	http://dengon.softbank.ne.jp
Y!mobile	http://dengon.softbank.ne.jp

5 出血時の応急手当てについて

① 止血法の対象者

- 主に外傷により出血している傷病者が対象です。
- 内出血の場合は、その診断、出血程度などの判断が難しいため、専門家に任せます。
- 出血部位、出血の種類、性状及び程度その他、傷病者の顔色、四肢の変形、ショック症状（冷汗、顔面蒼白、四肢冷感等）はないか等、全身をよく見ます。
- 優先すべきは、その出血が生命に危険を及ぼす出血、言い換えれば「大出血」であるかを見ることです。
- 出血量が多い程、また激しい程、止血を急ぐ必要があります。

② 出血の種類

a 動脈性出血

噴き出すような出血を動脈性出血と言い、真っ赤（鮮紅色）な血液が脈打つように噴出します。大きな血管では、瞬間的に多量の血液を失って出血死の恐れがあります。緊急に止血を必要とするのは、この動脈性出血です。

b 静脈性出血

湧き出るような出血を静脈性出血と言い、赤黒い（暗赤色）血液が持続的に湧くように出血します。動脈性に比べ、瞬時に死に至ることは稀ですが、大きな静脈からの出血が持続すれば、多量出血となり、止血の処置が遅れるとショック状態に陥る危険があります。

c 毛細血管性出血

にじみ出るような出血を毛細血管性出血と言い、指先を切ったり、転んで擦りむいたような時、傷口から赤色（動脈性と静脈性の中間色）の血液がにじみ出ます。この程度の出血は、大出血と関係ありません。



③ 止血の方法

- 反応、呼吸に異常があれば、救命処置を優先します。
- 外出血、特に大出血を認めた場合は、直ちに止血の処置を行います。
- 市民が行う止血法は、直接圧迫止血法です。

④ 直接圧迫止血法

出血部位をガーゼやタオルなどで直接強く圧迫して出血を止める方法です。

a 出血部を押さえる材料

- 清潔であること。
- 厚みのあるものであること（薄いものを何枚も重ねてもよい）。
- 出血部位を十分に覆うことができる大きさがあること。

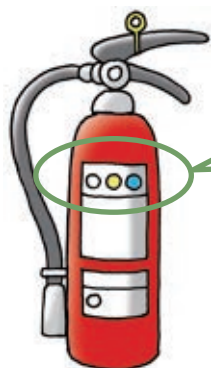
b 圧迫の行い方

- 出血部位にガーゼやタオルなどを当て、その上から手で強く圧迫します。片手で止血できなければ、両手で圧迫したり、体重をかけて圧迫して止血します。
- ほとんどの出血は、この方法で止血することができます。
- 圧迫したのにもかかわらず血がにじみ出る場合は、さらにその上にガーゼやタオルなどを重ねて圧迫します。この際は、はじめに当てたガーゼやタオルなどは外さないでください。

⑤ 血液感染防止

- 止血する時には、直接血液に触れないように工夫してください。
- ゴム手袋・ビニール袋などを着用することが勧められます。（救急箱・車の中・非常持出し袋などに、感染防止を目的とした手袋の常備をお勧めします。）
- 飛び散る血液が皮膚に直接付着しないよう、注意して手当てを行ってください。
- 手当を行った後には、必ず、流水により十分に手洗いを行ってください。

6 消火器の使い方



火災は燃焼する物質により3つに分けられます。

A火災（普通火災）

木材、紙、繊維などが燃える火災

B火災（油火災）

石油類その他の可燃性液体、油脂類などが燃える火災

C火災（電気火災）

電気設備・電気器具などの火災

消火器は適応できる火災をそれぞれのマークで表示してあります。



①安全ピンを上引っ張る
ように抜く



②ホースを外してノズルを
火元に向ける



③レバーを強く握って液を
放射する



7 トイレについて

断水した場合、水が供給できない状態でトイレを使用すると、配管が詰まり復旧に多くの時間と費用が必要となります。各キャンパスのトイレは、建物の利用可能状態を確認してから使用してください。

① 津田沼キャンパス

- 1号館・2号館は停電や断水があった場合、非常用発電機が稼働する間（半日程度）はトイレの使用が可能です。
- それ以外の施設では、各建物の貯水タンクや6号館前の池の水をバケツなどで運び、トイレ水として利用してください。

② 新習志野キャンパス

- 職員の指示に従い、建物の貯水タンクの水をバケツなどで運び、トイレ水として利用してください。

8 避難生活について

避難所生活のルール

- 避難所では、協力し合い、助け合って、お互い生活しやすいよう配慮してください。
- 体調が悪くなった場合は、教学センターへ連絡してください。
- できる限り大学の復旧や大学周辺の復旧にご協力ください。
- 避難所では、火気使用禁止、禁煙、禁酒、土足禁止です。
- 救援物資の配給、ごみの集積場所、使用するトイレは、大学の指示に従ってください。



9 その他災害への対応

① 火災

出火に居合わせた場合、「通報」「初期消火」「避難」の順に行動することが大切です。なお、火災や周囲の状況によって優先順位は異なりますので、逃げ遅れることのないように事前に訓練や避難経路の確認を行い、冷静に判断し行動できるよう心がけましょう。

① 通報

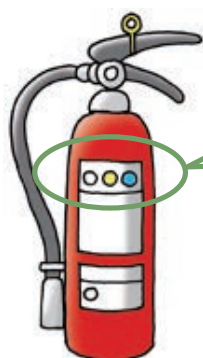
「火事だ!!」と大きな声で周囲に知らせ、各フロアに設置されている火災通報器のボタンを押す（通報器のベルが鳴り消火栓ポンプが作動します）。

その後、消防署「119」番に通報し、各キャンパスの教学センターへも連絡する。

津田沼キャンパスの場合 教学センター津田沼学生担当：047-478-0230

新習志野キャンパスの場合 教学センター新習志野学生担当：047-454-9756

② 初期消火



火災は燃焼する物質により3つに分けられます。

A火災（普通火災）

木材、紙、繊維などが燃える火災

B火災（油火災）

石油類その他の可燃性液体、油脂類などが燃える火災

C火災（電気火災）

電気設備・電気器具などの火災

消火器は適応できる火災をそれぞれのマークで表示してあります。



①安全ピンを上引っ張る
ように抜く



②ホースを外してノズルを
火元に向ける



③レバーを強く握って液を
放射する



③ 避難

初期消火の失敗又は火災が手に負えないと判断された時は速やかに屋外へ避難する。

炎が人又は天井の高さまで達してしまった場合はすぐに避難してください。

② 台風、大雨・大雪

台風や大雨・大雪は、毎年大きな災害をもたらしますが、テレビやラジオなどの気象情報を事前にチェックし、警報などの防災気象情報を利用して、被害を未然に防ぐ、あるいは、軽減することが可能です。

千葉県北西部に自然災害等に関する警報が発令されたときは、本学CITポータル及びホームページに授業の取扱い情報（臨時休講情報など）又は指示内容を配信しますので、必ず確認してください。

台風や大雨・大雪の危険が近づいているというニュースや気象情報を見たり聞いたりしたら、不必要に学内に滞在せず、課外活動を自粛するなど早めに帰宅するよう心がけてください。なお、一時的な豪雨などの場合、学内に留まることで直接的な被害を回避できます。この場合は、無理をして帰宅せず「しばらく様子を見ること」も検討してください。

a 周辺が冠水していたら

建物付近が冠水している場合、建物の2階以上に垂直避難をしましょう。また、地下室は浸水しやすく、逃げ遅れる危険があります。気象情報に注意し、周辺状況に応じて地下室から避難をしてください。

b 落雷の危険を感じたら

落雷の音が聞こえたり光が見えたりした場合は、建物の中に避難してください。雷は高い木や鉄塔を伝わってくる可能性があります。グラウンドなどの開けた場所では特に注意してください。屋外で活動中の場合は、すぐに活動を中断し安全な建物へ避難してください。活動の再開は、最後の落雷から30分経過した後を目安としてください。

③ 武力攻撃（弾道ミサイル発射）時の行動

弾道ミサイルは、発射から10分足らずで到達することもあります。弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合は、政府のJアラートにより、防災行政無線や携帯電話などの緊急速報メールで通知されます。

a 防災行政無線や緊急速報メールが発信されたら

屋外にいる場合は、直ちに屋内へ避難してください。近くに適当な建物等がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せ頭部を守って下さい。屋内にいる場合は窓から離れて、できれば窓のない部屋へ移動してください。

b 弾道ミサイルが落下する恐れがない場合

防災行政無線や緊急速報メールにより、避難の呼びかけを解除する旨の情報が発信されます。引き続き屋内に避難する必要はありませんが、その後の情報に留意してください。

c 弾道ミサイルが落下したら

激しい爆風や破片などにより、身体に大きな影響を受ける可能性があります。また、ミサイルには有毒物質等が含まれている可能性があります。万が一に備え、屋外にいる場合は口と鼻をハンカチで覆い、現場から直ちに離れ、屋内へ避難してください。屋内にいる場合は換気扇を止め、窓を閉めてください。

10 防災対応マニュアルについて

① マニュアルの改訂について

- 防災対応マニュアルは随時改訂します。
- 改訂版はホームページに掲載しております。
- 必要に応じてプリントアウトしてください。

② ご意見・ご要望について

- より使いやすく、必要な情報を網羅したマニュアル作成を目指しています。
- マニュアルに関するご意見・ご要望をお寄せください。

宛先：総務部 電話 047-478-0208 FAX 047-478-0259
メール soumu@p.chibakoudai.jp

マニュアルの作成について

名 称 : 千葉工業大学 防災対応マニュアル2025年度版 ～大地震と津波に備えて～
発行者 : 千葉工業大学 安全委員会 (寺本 直純 委員長)
作成者 : 安全委員会「防災対応マニュアル」ワーキンググループ
(田邊 里奈、千代田 和夫、宮澤 英徳、仲井 崇)
連絡先 : 学校法人千葉工業大学 総務部
住 所 : 〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1
電 話 : 047-478-0208



〒275-0016 千葉県 習志野市 津田沼 2-17-1
TEL 047-478-0208 FAX 047-478-0259